

## 「陥没空洞事故、調布市では何が起きていたのか被害者の声を聞く ～国土交通省・ネクスコ東日本 対応の実態は～」

### 1. 振動・騒音・低周波音・ガス漏れなどいつ頃からどの程度のものがどれくらいの範囲であったのか。

#### **振動・騒音・低周波音**

8月初旬から陥没直前までの間に、今回事業者が補償の範囲としている東つつじヶ丘3丁目・2丁目、若葉町1丁目の範囲のほぼ全域に亘って被害報告（住民連絡会調査）がある。概ね家屋調査の範囲であるが、範囲から数十メートル外れた地域の方からの申告もある。

※（被害の実態：（別紙）外環被害住民連絡会・調布ニュース No.1 および住民の声抜粋参照）  
振動・騒音・低周波音はシールドマシンが近づいてきた頃から始まり、2、3週間～ひと月近く続いた。陥没前まで測定を拒否された低周波音は、陥没・空洞周辺では現在まで続いている。

※最近になって、陥没・空洞地域以外の調布市入間町でも振動および家屋損傷（2020年8月頃他）の報告あり。

#### **ガス漏れ（いずれも南行トンネル直上周辺で起こっている）**

- ・12月9日 東つつじヶ丘3丁目 …… シールドマシン通過は8月初旬  
（当日近隣で表面波探査調査の木槌で地面をドンドン叩いていたとの証言あり）
  - ・1月5日 若葉町1丁目 …… シールドマシン通過は9月初旬
  - ・1月14日 東つつじヶ丘2丁目 （両箇所は入間川の神明橋の東側と西側の橋のためと）  
（1月の2箇所は空洞調査で異常信号が出たところのアスファルトを切り開いたところ発見された。）
- ※陥没・空洞地域の東つつじヶ丘2丁目ではガスを振動に強い塩ビ管に取り換え工事が6月初旬完了

#### **入間川分水路の内部損傷**

2021年4月27日公表：都が損傷を確認した入間川の取水施設から約 360 メートルのうち、管の位置の変化が確認された約 40 メートルの区間の 8 カ所が外環工事影響の判断。いずれも管が 1 センチ前後沈下

### 2. 事故後の事業者の対応（4 ページ「事業者の姿勢に対する被害者の会の対応」参照）

＜ネクスコ東日本＞

#### **現地相談所開設**

原因究明のためのボーリング他各種調査の日程、結果報告等の情報提供がほとんどなく、情報周知のために、現地相談所の開設を住民連絡会立ち上げ当初から求めてきたが、無視。

4月19日に仮移転交渉が始まる段になってようやく「つつじヶ丘相談所」開設 原則事前予約制

#### **被害調査**

2020年11月27日付「東京外かく環状道路事業に伴う家屋中間調査について」で、2021年1月31日までに家屋被害の調査希望を住民（約1000世帯）に確認 ⇒ 今回は事前の家屋調査のない場合にも原状回復、応急処置に応じる

（2021年6月5日現在） 中間調査回答中、 調査希望件数 237 調査実施済み件数 225  
調査希望なし 23

### 説明会における対応の仕方

加害者責任の薄弱……ネクスコ東の社長からの住民への謝罪なし  
質問時間が短すぎる。4月の説明会は空席が多くあっても複数回の出席を認めない  
メディアが入ることができたのは、4月の説明会が初めて  
過失は決して認めない  
説明会での質問と回答のとりまとめのやり方に質問のねじまげや嘘などまともな回答になっていない

### 国道事務所

説明会への同席のみ、他一切関わりなし  
根本原因が計画、設計段階での事前のボーリング調査不足との追及に対して、矛先が国の責任  
へ向けられるのを避けていると思われる。  
地盤工学専門家：「陥没・空洞の原因は1kmのボーリング調査空白区間、全てここに帰着する」

### 3. 調布市役所、および議員の対応

早急な原因究明を行うとともに、地域住民の安全確保、不安の解消に万全な再発防止策を講じるよう、市民の安全・安心と生活環境を守る立場の地元市として、市内の掘進箇所の徹底的な地盤状況調査、現場事務所の設置、緊急時対応の抜本的な見直し等の着実な実行を求める要請書を、国土交通大臣等事業者に提出 ④ その後の検証は？ 事業者任せ？

#### 市および市議会 ⇒ 事業者3者への緊急要請2通提出

10月20日 陥没について  
11月24日 新たな地中の空洞確認について  
12月17日 市議会は、原因究明や再発防止策が図られるまでの工事停止などを求める決議を満場一致で可決した。

#### 住民 ⇒ 市および市議会への働きかけ

1月15日 「陥没事故・空洞・地盤破壊への対応」要求書を事業者3者、都知事、調布市長宛提出  
2月5日 連絡会と調布市都市整備部外環担当課長他との面談  
3月18日 連絡会と調布市都市整備部部長との面談  
(調布市長・市議会議長宛「地盤状況、地盤補修方法や影響、地盤補修範囲に特化した説明会開催」の要望書提出)  
6月16日 被害地域の特定のための深層ボーリング調査範囲の拡充を求める陳情 ⇒ 継続審査

### 4. 地盤補修の説明

12月20日、21日説明会 資料に陥没・空洞箇所のトンネル上部まで地盤のゆるみの記載  
詳細の説明なし  
2月14日、15日説明会 資料にボーリング④～⑨までの区間において地盤のゆるみの記載  
詳細の説明なし  
4月2日、3日説明会 ボーリング④～⑨までの区間において地盤のゆるみ  
仮移転 ⇒ 家屋撤去、更地 ⇒ 地盤補修 ⇒ 再建築 ⇒ 移転完了  
(3月19日の記者会見で住民への説明前に地盤補修案などいきなり打ち出し驚く。)

5. 住民として不十分と思われたところや不満など

・住民の人権無視の事業

振動・騒音・低周波音の原因追及なしで、住民の一時避難が対応策？

・団体交渉に応じない 全て個別交渉

説明会（地盤状況、地盤補修方法や影響、地盤補修範囲）要求無視

・説明責任の不履行

住民からの要請書に対しての一方的な文書回答

問題点満載の報告書

・事前ボーリング調査不足（1kmのボーリング調査空白区間）を認めない

・若葉町の被害実態と地表面変位計測計画結果の疑問（日経の衛星データ結果比較）

・地盤緩み範囲（トンネル直上16mの範囲のみ）への疑義

・排土量管理のデータ不足

・第三者性のない有識者委員会

原因及び対策への疑義

議事録なしの委員会 ← 問題点の検証不能

6. 2021年4月の武蔵野市での説明会の質問に関して

1) 陥没の予兆はなかったのか？

地表面計測の管理は傾斜角のみ基準値が示されていたが、陥没時も基準値以内（1000分の1ラジアン）だった。新横浜トンネルでの幹線道路の陥没では3日前から沈下量に変化が出たが、調布の住宅地の陥没では当日の計測にも変化はなかったと聞いている。

⇒ 陥没の予兆を捉える方法の模索が必要

（本当に事前変化がなかったのか？ 地山崩壊探査棒などの使用は？）

➤ 地下水位の変化で予兆を捉えられないか？

➤ 基準値の見直しが必要（沈下量の基準値）等々

2) 緊急時対応の実態は？

陥没箇所が50cm程の亀裂の状態時、水準測量計測者と鹿島 JV 担当者はいしたが、警察、市役所への通報は住民が行った。（消防は警察から連絡するということだった）

⇒ 緊急時対応として地表面高さの計測結果を定期的に公表（2021年3月版トンネル工事の安全・安心 確保の取組み10ページ）とあるが、つつじヶ丘相談所には5月中旬現在情報なし

3) 陥没・空洞の原因に振動は関係なく、特殊な地盤と特別な作業が原因というのは本当か？

特殊な地盤というが、大和川シールド工事では掘削断面の上半部が崩壊地盤であったが、綿密な掘進管理をしたことで、沈下量の管理限界値を5mmとして、最終的に1mm 程度の沈下で収束させている。排土量管理は切羽に近い後続台車上にベルトスケールとスキャンセンサを設置し、双方によるリアルタイムグラフにて傾向管理を行い、過取り込みや取込不足がないことを確認した。リング毎の排土量の実績もグラフ化している。外環のリング毎の排土量データ開示が必須。

## 事業者の姿勢に対する被害者の会の対応

### 【要望書・要請書・質問書提出、声明発表】

- 11月22日 住民連絡会がネクスコ東日本と中日本に「陥没・空洞に関する要望書」を提出
- ① 連絡会との面談の設定
  - ② ボーリング調査について住民への説明・報告
  - ③ 空洞に関する被害補償等の説明
- 12月 7日、11日 連絡会がネクスコ東日本、中日本に要請・質問書を提出  
現地事務所の設置や原因究明、住民との協議の場など14項目
- 1月15日 連絡会が国交省、ネクスコ2社、東京都知事、調布市長に  
「陥没事故・空洞・地盤破壊への対応」で要求書提出
- 2月14日 連絡会、有識者委員会報告を受け声明
- ① 中立な第三者委員会による検証を
  - ② 事前調査の欠如と無責任な施工管理
  - ③ 公正、公平な補償基準の公表
  - ④ 住民との真摯に向き合う交渉
- 4月 3日 最終報告説明会を受けて（若葉小前）声明
- 『私たちの地盤を元に戻して  
私たちの土地の将来を決めるのは私たち  
陥没・空洞の原因は全て、事前ボーリング調査をしなかった1kmの空白区間。  
ここに帰着する  
緩んだ地盤の隣にもう一本のトンネルなど到底認められない』

### 【市議会、都議会、国会の各会派へのロビーイング】

- 市議会 : 広域交通特別委員会の各議員の全員参加（自由参加）
- 都議会 : 自民党 林議員  
都民ファースト 尾崎議員  
公明党 中島議員
- 国会 : 自民党 伊藤達也議員  
立憲民主党 山花郁夫議員  
共産党 山添拓議員

### 【調布市への働きかけ】

- 1月15日 「陥没事故・空洞・地盤破壊への対応」で要求書提出
- 2月 5日 連絡会と調布市都市整備部外環担当課長他との面談
- 3月18日 連絡会と調布市都市整備部長他との面談
- 6月16日 被害地域の特定のための深層ボーリング調査範囲の拡充を求める陳情⇒継続審査